

2. 地域別まちづくりの方針

(1) 尾鷲北地域



1) 地域の概況

◆ 位置・環境

- ・尾鷲北地域は、中川から北側に位置し、市役所等の行政機能が立地する本市の中心的地域であり、市役所及びJ R尾鷲駅周辺地区は、東紀州地域の広域拠点として位置づけられています。
- ・市街地の東側の海岸部には天然の良港である尾鷲港を有し、その風土、資源、人材を活かして栄えてきました。
- ・尾鷲北地域内には、J R紀勢本線及び国道 42 号が南北方向に通っており、また、国道 425 号が本地域から西に向けて通っているほか、紀勢自動車道の尾鷲北 IC が整備されています。

◆ 歴史文化

本市は、昔から水地・天満・中井・堀北・野地・南・林・矢浜・向井の9つの浦村が、共同して連合体をつくっており、これを尾鷲九か村（または九か在）と呼んでいました。

本地域に位置する尾鷲神社の起源は古く、大宝年間（701～703 年）の創基と伝えられており、「紀伊続風土記」には、大宝天王社として、中井・南・林・堀北・野地・矢浜・向井・大曾根・行野・天満・水地の 11 か村の産土神で、祭神の大宝天王は須佐男命と言われている。



尾鷲神社

江戸中期は、海上交通の最も華やかな時代で、大坂～江戸間の物資輸送のため、千石船の回船が盛んに熊野灘を往来し、このコースは海の東海道と言われたほどであり、尾鷲の海岸はリアス式のため良港が多く、特に尾鷲浦は年間七千石という大量の米の移入を必要としたので、各地の回船が積荷の米を尾鷲浦の「前の浜」へ降ろし、帰り荷として木材・薪炭・魚類を積み、そのあいだ船乗りたちは天満浦の長浜へ上陸して遊んだものでした。

特に、江戸期の中井浦には六軒町・中井本町・土井町・次郎子町・川原町・新川原町・上川原町・祢宜町・下り坂町・今町の10町があり、中井本町は六軒町が続いて土井町の角まで尾鷲の一番繁華街として商家が建ち並び、熊野街道（熊野古道）の主要な通りとして人の往来も多く、毎日にぎわった町でした。寛政5年（1793年）には、290軒からの家が、人口も1,430人からあり、文字どおり尾鷲の中心地をなしていました。



熊野街道のまち並み

なお、「尾鷲節」の元唄ともいわれる「なしょまま」は、大坂夏の陣に奮戦がいなく敗れた真田一族が、尾鷲の里に身を偲ばせ、その痛憤の情を唄に託したものと伝えられています。

このような歴史の流れのなかで、明治初年には市内に23の浦村があるなか、明治7年に南浦と林浦が合併して尾鷲南浦となり、明治22年に小さな集落のような浦村が合併して、尾鷲町・須賀利村・九鬼村・北輪内村・南輪内村が誕生し、その後、昭和29年に5町村が合併して尾鷲市になっています。

※『おわせの浦村／尾鷲市郷土館友の会 昭和52年10月発行』より引用。以下、各地域の「歴史文化」の項も同様。

◆ 土地利用

- ・尾鷲北地域は都市計画区域内にあり、天満地区には、農振農用地があります。
- ・尾鷲北地域内には、国道42号やJR紀勢本線が市街地を分断するように南北に通っており、国道42号などの広域幹線や地域内幹線道路の沿道地区以外は、多くが狭あい道路で形成された密集市街地です。
- ・国道42号より東側は歴史的な住宅系市街地が、また西側は新しい住宅系市街地が形成されています。
- ・JR尾鷲駅前周辺地区から尾鷲港に向けて、紀望通り周辺地区には商業地が形成され、その東側は臨港地区となっています。
- ・国道42号沿道には、ロードサイド型商業施設が立地しています。



JR 尾鷲駅

◆ 都市基盤

- ・尾鷲北地域の道路網は、国道 42 号、425 号などの広域幹線道路と、これらの幹線に連絡する県道・市道で構成されており、紀勢自動車道の尾鷲北 IC が整備されています。
- ・J R 尾鷲駅前広場は、今後の整備が必要となっています。
- ・公共交通機関は尾鷲北地域を中心に展開しており、鉄道は J R 紀勢本線、バスは三重交通が運行しています。
- ・尾鷲港は重要港湾の指定を受けており、魚介類の水揚げなどに利用されています。なお、今後発生が予想される南海トラフ地震に対応した耐震強化岸壁の整備は平成 23 年度に完了しました。
- ・尾鷲市役所、中央公民館、防災センターなど、公共公益施設のセンター機能を持つ施設は、ほとんどが尾鷲北地域に立地しています。
- ・公園・オープンスペースとして、尾鷲北地域内に 3 つの都市公園があります。



紀勢自動車道（尾鷲北 IC）



尾鷲港



中村山公園（尾鷲市立天文科学館）

◆ 産業

- ・水産業は本市の基幹産業であり、尾鷲港がその中心となっています。
- ・天満地区には農振農用地区域があり、山麓の斜面地にはみかんなどの果樹園が広がっています。
- ・林業は、強靱な良質の材木として名高い尾鷲ヒノキの集散地となっています。
- ・商業、サービス業は、J R 尾鷲駅前の駅前商店街や紀望通り沿道に近隣商業施設が、また国道 42 号沿道には、ロードサイド型の大型店などが立地しています。
- ・観光業は、平成 16 年に熊野古道が世界遺産に登録されたことから、本市への入込み客がそれ以前と比べて増加し、尾鷲北地域は隣接する尾鷲南地域に立地する夢古道おわせや熊野古道センターなどの広域集客交流施設への玄関口となっています。



まちかど HOT センター

2) 地域（まち）の将来像

**紀勢自動車道、熊野尾鷲道路の開通に対応した東紀州の広域拠点として、
また尾鷲市の中心拠点として快適に暮らせるまちづくり**

東紀州の広域拠点、また、尾鷲市の中心地区として、尾鷲北地域内の世界遺産・熊野古道などの歴史的資源や農林水産関連の産業資源を活かした観光振興による活性化を図るとともに、市街地の整備や災害に強いまちづくりを図り、誰もが快適に住み続けられるまちづくりを推進します。

3) 地域のまちづくり方針

◆ まちづくりの柱 1

紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活かした、情報発信、広域防災拠点施設づくり

紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活かし、尾鷲市の情報発信や尾鷲市街地への誘客の促進を図るとともに、広域防災拠点となる施設の国道 42 号沿道への誘致を検討します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 国道 42 号沿道への情報発信機能を備えた防災施設の誘致

◆ まちづくりの柱 2

尾鷲市の玄関口の J R 尾鷲駅前周辺及び中心市街地の活性化

尾鷲市の玄関口として、また、まちの活性化の起点として、J R 尾鷲駅前周辺地区及び駅前商店街などの中心市街地の活性化を推進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ J R 尾鷲駅前周辺地区の玄関口にふさわしい土地利用の検討
- ・ J R 尾鷲駅前広場の利便性の向上
- ・ 駅前商店街及び紀望通りの活性化

◆ まちづくりの柱 3

都市計画道路の整備や港湾施設などの活用

都市づくりの方針や地域の状況をふまえ、都市基盤施設である都市計画道路の整備とともに、臨港地区内の未利用地を含めた港湾施設などの有効活用の促進を図り、みなとオアシス登録に向けた検討を行います。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 中長期的な視点に立った都市計画道路の整備促進
- ・ 都市計画道路尾鷲港新田線の整備
- ・ 埋立未利用地を活用した臨港地区の整備の推進
- ・ 尾鷲港を活かした、その周辺地区の有効活用
- ・ 尾鷲湾の環境保全

◆ まちづくりの柱 4

世界遺産・熊野古道沿道の景観を活かした、まちなか観光の推進

尾鷲市街地内の熊野街道は、世界遺産・熊野古道馬越峠道と八鬼山道間の街道であることから、その沿道地区の貴重な歴史的、文化的な要素の活用、保全に努めながら、まちなか観光を推進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ まちなかへの誘客を促進するための環境・モデルづくり
- ・ まちかどHOTセンターの情報発信機能の強化

◆ まちづくりの柱 5

地域産業の有効活用の推進

地元のまちづくり組織等が主体となり、農林水産資源などの地域産業の活用と情報の発信を推進します。

◆ プロジェクトの方向

- ・ 斜面地の果樹園等を有効活用した農業振興

◆ 尾鷲北地域 のまちづくり方針

地域（まち）の将来像	紀勢自動車道、熊野尾鷲道路の開通に対応した東紀州の広域拠点として、また尾鷲市の中心拠点として快適に暮らせるまちづくり		
------------	--	--	--

地域づくりの方針			
まちづくりの柱 1	紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活かした、情報発信、広域防災拠点施設づくり	まちづくりの柱 2	尾鷲市の玄関口のＪＲ尾鷲駅前周辺及び中心市街地の活性化
まちづくりの柱 3	都市計画道路の整備や港湾施設などの活用	まちづくりの柱 4	世界遺産・熊野古道沿道の景観を活かした、まちなか観光の推進
まちづくりの柱 5	地域産業の有効活用の推進		

プロジェクトの方向



